



NHK大河ドラマ「八重の桜」を活用したPR事業

平成25年1月から始まるNHK大河ドラマ「八重の桜」を有効に活用し、豊岡・出石の認知度アップにつなげ、誘客促進等を進める。

また、12月に、中貝市長がゆかりの地である会津若松市を訪問する予定である。

1 NHK大河ドラマ「八重の桜」概要

- (1) 会津藩士の娘で、激動の幕末から明治、昭和の時代を生き抜いた「新島八重」の生涯を描いた作品。
にいじま や え
- (2) 主人公「新島八重」の最初の夫は出石出身の「川崎尚之助」。人気俳優「長谷川博己」が「川崎尚之助」を演じる。
かわさきしょうのすけ はせがわひろき
- (3) 「新島八重」は、同志社大学を創設した「新島襄」と再婚し、同志社の発展に尽くした。
にいじま や え じょう

2 ドラマ活用のPR事業

(1) 会津若松市長を表敬訪問

「八重の桜」で盛り上がる会津若松市を中貝市長が訪問し、室井照平会津若松市長と懇談する。

①訪問目的

- ア 豊岡市をPRし、地域振興につなげていく。
- イ 川崎尚之助のイメージアップを図る。

「川崎尚之助は会津藩籍を持たないため開城前に逃げた」など、マイナスイメージのある川崎尚之助について、正しく理解していただく。

②訪問日時

12月18日（火）午後5時

(2) 雑誌広告でPR

①NHK大河ドラマ公式ストーリーブック・八重の桜（前編）に1ページ全面広告

ア 広告の内容

「会津藩に命を捧げた男 川崎尚之助を生んだ町」として城下町出石のまちを紹介（願成寺、宗鏡寺、永楽館、出石皿そば、出石焼）する。

また、市内の主なスポットとして、コウノトリの郷公園と城崎温泉も紹介

イ 広告料

714千円（市：464千円

但馬國出石観光協会：250千円）

〈NHK大河ドラマ公式ストーリーブック概要〉

大河ドラマのガイドブック。あらすじや、出演者のインタビューなどが掲載される。





- ア 発行：株式会社日本放送出版協会（NHK出版）
イ 体裁：B5版／右開き／全208P（予定）
ウ 発行部数：25万部
エ 予定価格：1,000円（税別）
オ 発売日：平成24年12月下旬（予定）
カ 販売：全国書店

②NHK大河ドラマ歴史ハンドブックの表紙裏面1ページ全面広告

ア 広告の内容

「会津藩に命を捧げた男 川崎尚之助を生んだ町」として城下町出石のまちを紹介する（願成寺、宗鏡寺、永楽館、出石皿そば、出石焼）。また、市内の主なスポットとして、コウノトリの郷公園と城崎温泉も紹介（※公式ストーリーブックと同じ内容）

イ 広告料

58千円（市負担）

〈NHK大河ドラマ歴史ハンドブック概要〉

大河ドラマの歴史ハンドブック。歴史的背景、人物データなどが史実に沿って解説される。

- ア 発行：株式会社日本放送出版協会（NHK出版）
イ 体裁：A5版／右開き／全160P（予定）
ウ 発行部数：3万部
エ 予定価格：950円（税別）
オ 発売日：平成24年12月下旬（予定）
カ 販売：全国書店

（3）市広報でPR

12月25日号から5回シリーズで川崎尚之助とゆかりの地を紹介

（4）その他（民間の取組み）

①川崎尚之助の酒「尚之助」

「八重の桜」放映に合わせて、日本酒「生酏 純米 尚之助」（香住鶴株式会社）が、11月2日から発売されている。

- ア 数量 限定
イ 原料米等 兵庫県豊岡産 五百万石 70%精米
ウ 内容量 720ml
エ 価格 1,344円(税込)



《参考》川崎尚之助関係図書

1 『ハンサムウーマン新島八重』

- (1) 著者 鈴木由紀子
- (2) 出版社 NHK出版
- (3) 出版年月 2012年10月
- (4) 川崎尚之助掲載概要

川崎尚之助について優秀な蘭学者・砲術家として高く評価している。

最近、会津若松市立会津図書館で川崎が会津藩士であることを示す史料〔慶応年間の文官記録「御近習人別帳」と戊辰戦争後の会津藩士「東京謹慎人別」に川崎の記名あり〕が見つかったことが記載されている。

また、会津藩が斗南藩（青森県）として再興が認められた後、藩の窮状を見かねた川崎が、収穫予定の大豆と米とを現物交換する先物取引を行い、詐欺にあつて訴訟事件となり、川崎は藩のためにその罪を一身に受けたと書かれている。著者は、「川崎は情に厚く、義侠心にとんだ人物であった。他藩の出でありながら会津藩のために命がけで尽くしたにもかかわらず、最後は切り捨てられ、その存在すら抹殺されてしまったかのよう」と述べている。

2 『新島八重を歩く』—幕末・明治に生きた会津女性の足跡—

- (1) 編者 星亮一・戊辰戦争研究会
- (2) 出版社 潮書房光人社
- (3) 出版年月 2012年10月
- (4) 川崎尚之助関係項目・執筆者・概要

①「山本八重の最初の夫・川崎尚之助」 執筆者：生江昌平

川崎尚之助の出自から戊辰戦争まで（会津戦争まで）を記述。

川崎は他藩の人間ということで、会津降伏前日に逃亡したと書いた作品も存在するが、川崎は砲術頭取として登用されていた会津藩士であり、他の藩士とともに新政府軍に降伏した。この後、妻の八重と別れ、謹慎場所として指定された東京へ護送されたと書かれている。

②「知られざる八重の夫・川崎尚之助晩年の真実」 執筆者：あさくらゆう

戊辰戦争後から死去するまでの川崎尚之助の足跡を北海道開拓使資料など、新出史料に基づき検証している。会津藩士として降伏した記述もある。

ここにも、川崎が斗南藩（会津藩の再興）の飢餓を救うために先物取引を行い、訴訟に発展した。藩のために、罪を一身に受け東京に連行され、その後病死したことが書かれている。

川崎の名前が生家の菩提寺「願成寺」（出石町）の墓石台帳にあることも記されており、出石のまちも紹介されている。

3 『八重の桜【一】』

- (1) 著者 作：山本むつみ ノベライズ：五十嵐佳子
- (2) 出版社 NHK出版
- (3) 出版年月 2012年11月
- (4) 尚之助掲載概要

大河ドラマの脚本が小説化された本の第1巻。4巻まで発行される。川崎尚之



助は、但馬出石藩出身の医者の子で、蘭学を修めた有能な男として登場。江戸の佐久間象山塾で知り合った八重の兄、山本覚馬に惚れ込み、蘭学所の教授になるため会津に行き、山本家の居候となる。覚馬は、尚之助を藩士に取りたててほしいと願うが、保守的な藩の老臣たちはそれを退ける。また、尚之助は八重と共に、会津藩のために、新型鉄砲の開発をするが、藩はそれを採用しようとしぬ。覚馬は、尚之助が八重と結婚し山本家の人間になれば、仕官の道は開けると考え、二人を結婚させようとする。最初は結婚を考えられない二人だが、少しずつ感情が芽生えてくるというストーリーになっている。

4 『川崎尚之助と八重』 ――途に生きた男の生涯―

- (1) 著者 あさくらゆう
- (2) 出版社 知道出版
- (3) 出版年月 2012年12月予定
- (4) 尚之助掲載概要

著者が発見した「北海道開拓使公文録」中の資料を含め、出石願成寺での資料調査の成果など、川崎尚之助を中心とした著作

〔問合せ〕 豊岡市政策調整部地域戦略推進課 Tel0796-21-9012